

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：2019 年 6 月 22 日 報告者：長田 裕之

行事種別	研究会		行事番号	190003014	
開催日	2019 年 6 月 15 日（土）				
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場 所	リップルスクエア（所在地 名古屋市東区）				
テーマ	ISO15189、JCI 認証について知ろう				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	名古屋第二赤十字病院		長田 裕之		
講 師	刈谷豊田総合病院		林 直樹		
	名古屋大学医学部附属病院		佐藤 浩司		
	(株)エスアールエル 顧客サービス課		松本 登貴夫		
内 容	講演 1 「ISO15189 取得施設における、病理検査の品質・運用管理」林				
	刈谷豊田総合病院における ISO15189 取得のためのプロジェクトチームの立ち上げから、取得後の運用についてまで詳細な説明がありました。その中では、ISO15189 を取得したことにより、検査サービスの質の向上、顧客満足度の向上、責任と権限の明確化など、多くのメリットがあったことが紹介されました。また、ISO15189 で要求される品質目標については、具体的に毎日、細胞診スクリーニングの数値目標を設定し、その目標を達成するために努力していることが紹介されました。ISO15189 は取得するだけでは意味がなく、継続して改善していくことが大切だと分かりました。ISO15189 取得を目指す施設だけでなく、更新を予定する施設にも参考になる内容でした。				
	講演 2 「当院病理部における JCI 認証取得への取り組み」佐藤				
	名古屋大学医学部附属病院における JCI 取得について、ISO15189 との違いを含めて説明がありました。ISO15189 は臨床検査に特化したものであるのに対し、JCI は病院全体を評価するもので、要求事項も患者確認、感染予防、患者ケアなど 1270 項目あり、誰が質問されるか分からないなど、違いについて説明がありました。実際の病理検査室への審査では、剖検室の改善について指摘されたことが紹介されました。				
内 容	講演 3 「ISO15189 について」松本				
	ISO15189 の概要について説明がありました。「管理上の要求事項」では、検査室や検査結果の質を管理するために必要な仕組みや管理方法が求められ、「技術的要求事項」では正しい検査結果を出すために必要な能力や方法が求められるとのことでした。要求事項は標準作業書や日誌等の作成だけでなく、品質マネジメントシステムの構築、苦情処理、是正処置、評価及び監査など、多岐に亘りますが、一番				

	重要なことは、継続的に PDCA を回して改善する仕組みを作ることだと強調されていました。講演は ISO15189 を知らない初心者の方にも分かりやすい内容で、大変勉強になりました。
参加者	総数：71 名（会員 68 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 3 名、学生 0 名、その他 0 名）
共催、後援など	

2016.6.28

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：2019 年 10 月 7 日 報告者：藤田 智洋

行事種別	基礎講座		行事番号	190011169	
開催日	2019 年 9 月 15 日 (土)				
時 間	開 始	9 時 00 分	終 了	16 時 00 分	
場 所	名古屋大学医学部保健学科 (所在地 名古屋市東区)				
テーマ	子宮がん Up-to-Date				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	小牧市民病院		藤田 智洋		
講 師	名古屋大学医学部附属病院		原 稔晶		
	公立西知多総合病院		角屋 雅路		
	愛知県がんセンター病院		森 正彦		
	ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社		大橋 健太		
内 容	講演 1 「子宮がんの病理検査」原 子宮がんの統計や子宮の解剖などの総論に加えて、病理組織標本を作製する上での注意点、進行期分類、組織学など日常業務に欠かせない知識や忘れがちなポイントを解説して頂いた。 講演 2 「子宮内膜細胞診のみかた」角屋 内膜の細胞診に重点を置き、正常の子宮内膜細胞から悪性である類内膜腺癌、漿液性腺癌、ホルモンの影響による細胞形態変化など多くの画像をもとに鑑別ポイントを詳細に解説して頂いた。 講演 3 「子宮がんの臨床」森 HPV ワクチンに関連する統計や、診察の仕方、実際の手術ではどのように子宮摘出をしていくかなど普段私たちが見ることのない手技の動画を見ながら詳しく解説して頂いた。 講演 4 「子宮頸部細胞診とハイリスク HPV 持続感染のエビデンス」大橋 日本における子宮頸がん検診のガイドラインから HPV 検査に関する日本と海外の現状、液状化検体細胞診の原理と従来法との違いの講義して頂き、液状化検体細胞診の標本作製デモと標本観察をおこなった。 内膜細胞診の検鏡実習 内膜細胞診の標本 25 症例を、解説シートを参考に、鏡検実習をおこなった。				

	子宮がんにおける細胞診の役割は極めて大きく、病理細胞診検査でも特に関わりの大きい分野であるため、“子宮がん Up-to-Date”のテーマで基礎講座をおこなった。 午前中の講義では総論から治療までを学び、活発な質疑応答が関心の高さを表していた。午後の実習では内膜細胞診のみ、正常から悪性まで 25 症例の検鏡をおこない大変有意義な基礎講座になった。
参加者	総数：70 名（会員 67 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 1 名、その他 2 名）
共催、後援など	

2016.6.28

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：2019 年 12 月 26 日 報告者：杉浦 記弘、森 三希子

行事種別	研究会	行事番号	190023252	
開催日	2019 年 12 月 21 日（土）			
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 00 分
場 所	リップルスクエア（所在地 名古屋市東区）			
テーマ	ゲノム診療用病理組織検体の取扱いと精度管理			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	JA 愛知厚生連 安城更生病院 JA 愛知厚生連 渥美病院		杉浦 記弘 森 三希子	
講 師	アストラゼネカ株式会社 愛知県がんセンター 名古屋第二赤十字病院		畑中 聖哉 吉野 聡 岩田 英紘	
内 容	講演 1 「EGFR 遺伝子変異陽性 NSCLC の治療と検査」畑中 肺癌治療の歴史と肺癌分子標的治療薬および EGFR 遺伝子変異の検査法について、最新の情報を交えて話された。 講演 2 「ゲノム検査に向けた組織固定」吉野 ゲノム検査に適した検体処理について、固定方法に着目して解説していただいた。推奨固定時間である 48 時間を遵守するための様々な工夫や実際の運用方法、また週末や長期休暇の対応などを具体的に提示していただいた。 講演 3 「ゲノム医療を見据えた病理組織検体の取扱い ～ DNA の質と影響～」岩田 臨床現場で悩まれている病理組織検体のホルマリン固定の影響について、DNA の品質の測定方法や、実際ホルマリン固定によって DNA の品質がどのようなになっているか、ΔCt 値を用いてお話頂いた。今後様々な臨床現場でも生かされる講演であった。 今回は遺伝子染色体検査研究班、病理細胞検査研究班と合同で研究会を開催した。「がんゲノム医療」が急速に進み始めていることもあり、89 名という非常に多くの会員に参加頂いた。各講義に対し活発な質疑があり、有意義な研究会であった。			
参加者	総数：89 名（会員 89 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 2 年 2 月 22 日 報告者：藤田 智洋

行事種別	研究会		行事番号	190030575
開催日	令和 2 年 2 月 15 日（土）			
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 00 分
場 所	リップルスクエア（所在地 名古屋市東区）			
テーマ	令和元年度愛臨技精度管理事業、病理検査業務における新人教育			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司 会	小牧市民病院		藤田 智洋	
講 師	公立陶生病院		柚木 浩良	
	藤田医科大学病院		川島 佳晃	
	名古屋第二赤十字病院		長田 裕之	
	名古屋大学大学院		橋本 克訓	
内 容	「精度管理報告 細胞部門」柚木 令和元年度愛臨技精度管理・細胞部門の結果報告が行われた。フォトサーベイ 10 症例について詳しい解説がなされた。また、同時におこなったギムザ染色アンケートの結果報告も行われた。 「精度管理報告 病理部門」川島 令和元年度愛臨技精度管理・病理部門の結果報告が行われた。フォトサーベイ 10 設問について詳しい解説がなされた。また、同時に行ったアンケート調査の結果報告も行われた。 「職場における新人教育の現状について」長田 自施設の教育方法紹介と他施設の状況をまとめ報告が行われた。病理検査では多くの工程を経て標本作製されるが、各施設での教育順序、各工程での教育方法が紹介された。また、新人技師からの意見も紹介され今後の指導の参考になった。 「卒前教育における臨地実習について」橋本 教員の立場から養成校での教育方法の報告が行われた。臨地実習の目的、実習単位の変更点など臨床検査技師養成所指導ガイドラインをもとに解説がなされた。臨地実習で学生に経験させてほしいことや、教えてほしいことも伝えられた。 日臨技の事業計画でも新人教育、認定取得について重点をおかれており、今回の研究			

	会を企画した。現場での教育方法と養成校での教育について解説して頂き、自施設での新人教育、臨地実習生教育の参考になる有意義な研究会であった。
参加者	総数：69名（会員68名、県外会員0名、非会員0名、賛助会員0名、学生1名、その他0名）
共催、後援など	

2020.02.22